
死化粧

橘 明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死化粧

【Nコード】

N2092C

【作者名】

橘 明

【あらすじ】

恋人の登が撮った写真集「死化粧」には美しく哀れな人形達が写されている…不可思議な愛の世界

その写真集には、何体もの人形が写っていた。
その陶器で出来た人形達の、真つ白な顔に埋め込まれたガラスの瞳
は虚空を見つめ、
赤い小さな唇はどれも苦痛に歪んでいた。

「死化粧」

それがその写真集のタイトルだった。

私は今、この写真集を出したカメラマン、早川登の前に立っている。
ここは、登の部屋。

暗がりの中に、あの写真集で使われたのであろう人形達の顔がみえる。

登は、私に近付くとゆっくりと唇を重ねて来た。

そして、そのまま私をベットに押し倒すと服を脱がせ愛撫してくる。
それから、私が絶頂に達する頃、登はカメラを取り出し私の体を写す。

私は、登に言われるままのポーズをとる。

カシャツ カシャツ

無機質な音が響く。

これが私と登の最近の儀式だった。

すべてが終わると、私はベットの中で呟いた。

…私、モデルやめようと思うの。

…そう

登は答えた。

…何となくね、とられる喜びを最近感じなくなっちゃった。
どうしてかな？ 年だからかな？ ねえ、どう思う？

対して興味も無さそうな登に向かい、私はくどくどと理由を話してみる。

……

登は無言だ。

…ねえ、登は、どうして人形ばかりとるの？

私はどうしても登の声が聞きたくて、そんな質問を試してみた。

…綺麗だから

と、登は素っ気無い。

その時、登の携帯が鳴った。

登は、それに出ようともしないで、また私に唇を重ねて来た。

それから、鳴り続ける携帯の音を聞きながら、私と登の儀式が始まる。

この儀式の時にしか、私はもう撮られる喜びを感じなくなっていた。
登に写されながら、私は一体の人形と目が合った。

人形は、大きなガラスの瞳で私を見ている。

ふと、私は、あの死化粧の人形達の姿に自分自身を重ねてみたりするのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2092c/>

死化粧

2010年10月8日23時12分発行